

# 親ががんになったとき、子どもにどのように伝え、支えるか①

子どもの知りたい気持ちに応えることに早すぎることも遅すぎることもありません。子どもに親の病気について話そうと考えたまさにその時の状況に合わせて、お子さんと親のがんについて話し始めていただければ、遅すぎるということはないのです。

## □ 患者さん・ご家族からよくある声

- ・どんなタイミングで、どうやって伝えるか
- ・「がん」と伝えても子どもは理解できるのか
- ・上の子は理解できても、下の子は理解できないのではないか
- ・伝えることは子どもに悪影響を与えるのではないか
- ・子どもに伝えると周囲に話してしまうんじゃないか
- ・療養中の自分について、子どもがどんな風に考えているのか分からない

## □ 関連する冊子資料や書籍のご紹介

資料や本から、何か気がつくことがあるかもしれません

- ・「がんはどんな病気？」
- ・「わたしだって知りたい！」
- ・「だれも分かってくれない！」（思春期対象）

（ノバルティス ファーマ株式会社のホームページ

<http://www.novartis oncology.jp/patients/support/>

からダウンロードできます）

- ・「おかあさん だいじょうぶ？」  
（乳がんの親とその子どものためのプロジェクト編、  
小学館：書店で購入できます）